

滋賀県立近代美術館協議会(第42回)概要

1 開催日時：平成28年(2016年)11月2日(水) 午前10時00分～午前12時00分

2 開催場所：滋賀県立近代美術館 会議室

3 出席者：滋賀県立近代美術館協議会委員 10名

神田浩委員 佐渡一清委員 澤野二郎委員 前川秀治委員
柳原正樹委員 上野真知子委員 千速敏男委員 十倉良一委員
吉野律子委員 松本靖子委員

関係者

滋賀県総合政策部文化振興課

新生美術館整備室 馬淵室長

文化施設担当 中尾副主幹

滋賀県立近代美術館事務局

桂田館長 相井副館長 占部学芸課長 山本総務課長

4 会議次第

(1) 滋賀県立近代美術館 桂田館長 あいさつ

(2) 議 事

① 会長および副会長の選出について

② 収蔵品審査部会、コレクション形成部会について

③ 平成28年度上半期近代美術館事業進捗状況について

④ 新生美術館の整備状況について

⑤ その他

5 概要

(2) 議 事

① 会長副会長の選出について

○委員の互選により、会長に「柳原委員」、副会長に「千速委員」が選出された。

② 収蔵品審査部会、コレクション形成部会について

【事務局】

○収蔵品審査部会、コレクション形成部会、専門委員の説明

【会長】

○部会に属すべき委員、専門委員および部会長は会長が指名することとなっているので、
収集審査部会には私(柳原)が加わり部会長を、コレクション形成部会には上野委員に加

わっていただき部会長を、専門委員9名(収集審査部会5名、コレクション形成部会4名)を部会員に指名。

③ 平成28年度上半期近代美術館事業進捗状況について

【事務局】

○平成28年度上半期近代美術館事業進捗状況についての説明

【委員】

○アウトリーチというものはどういったものか。

【事務局】

○外に出掛けて様々なイベントをやっている、フェスティバルのようなものにひとつのブースとして参加するスタイルと、当館単独で行うスタイルの2種類がある。

【委員】

○4月の最初のたいけんびじゅつかんの参加人数がこんなにも少ないのはなぜか。

【事務局】

○HPのサーバーの容量が足りてないことが原因で、時々メールが受け付けられないトラブルがあった。きちんと参加者の申込みを受け付けられなかった。現在、早急に対処するようにしている。

【委員】

○BIWAKO大賞展のような企画を美術館でしていただいたのは大変ありがたい。また、私は42年ほど美術教師をしており、美術の授業の時間の確保に努めてきたが、非常に厳しい状況だった。そのような中で美術館として美術に親しむ機会を子どもたちに提供されていて、ありがたい。なにかお手伝いできればと思っている。

【委員】

○広報、メディア発信はどのようにされているのかお聞きしたい。

【事務局】

○雑誌関係者には、2、3ヶ月前にイベント開催のお知らせを送っている。1ヶ月前にはHPやブログ等で情報発信をしている。2週間前にはテレビや新聞社に情報発信し、ダイレクトメールを送っている。10日前には県庁の記者クラブに資料提供し、開催の前日または初日に当館で記者会見を行っている。それ以外にはポスターの駅貼りをしているが、今年度はJR琵琶湖線・京都線・大阪駅および京都の地下鉄に絞って掲示している。

【委員】

○効果の計測はされているのか。出しっぱなしではなくいかに効果が出ているのか把握することが大切。また、企画展によっても違うと思うが、広報の範囲はどのへんまでを考えているのか。

【事務局】

○ポスターとチラシは全国の美術館や博物館などの文化施設に発送している。プレスリリースは展覧会の内容によって少し変えており、企画展等の全国レベルでお客さんに来てほしいものに関しては全国レベルで送付している。たとえば子ども向けのイベントなど、近場で広報すべきものについては京都、ものによっては大阪まで範囲を伸ばして広報している。また、展覧会によっては通常とはまったく別の発送先も追加して、たとえば絵本の展覧会の場合は木のおもちゃを扱っているお店に、また現代美術の場合は若者が集まりそうなアート系の書店やカフェバー等の飲食店をリストアップして送っている。

【委員】

- 効果をあげるためには、ひとつひとつ効果がどうだったのか計測していくことが大事。記者が来ない場合は、知り合いの記者にどうして来ないのか聞くなど、そこまでは必要があると個人的に思う。出しっぱなしはもったいない。
- 今日配られた資料にも広報の効果の計測をひとつの欄として置くぐらいの力を入れてほしい。
- 先ほどのサーバーの話はどうにかしないと。今はほとんど若い人はネットで情報を仕入れているので。

【会長】

- 大変貴重なご意見。おっしゃっていただいたことはもっともだが、効果を計測するのは大変難しい。お金もかかる。大変難しい問題だが、努力すべき問題。
- 新聞社と共同主催の企画展はマスコミがリードして宣伝してくれるが、自主企画で広報をやる難しさは我々にとっても課題。
- 当館のとある企画展の評判がツイッターで拡散して観覧者数が伸びたことがあり、ツイッターの力はすごいと感じた。

【千速委員】

○貴館の常設展示には非常に良い作品がある。しかし常設展示の画像データはウェブサイトにはのっていない。著作権などいろいろな問題があると思うが、展覧会のタイトルだけでは美大生でもピンとこない。先日テレビでやっていたが、今の美大生が選んだベストアーティストは宮崎駿。もうピカソなんかではなく、そういう世代なので、作品一覧だけでは到底分からないだろう。画像の紹介があれば興味を持って来館していただけたらと思う。

【委員】

- 県展の入場者数は3千人ぐらいですか。滋賀県民が140万人なので400人に1人ぐらいと考えると寂しい。
- 今は美術の発表形態も様々になっていて、昔みたいに固定的な場所でやる方がいいというわけではない。
- これから新しい美術館になっていく上で、滋賀県の地域の文化である仏教美術や、新しく今光を浴びているアールブリュットも柱として入れていくということですよ。よく考えて取り組んでいただければ。

【委員】

○ギャラリー利用者はけっこう県内に広報しているので、そういったものに企画展のPRも

載せてもらうことができれば非常に効率がいいのでは。

【委員】

○ギャラリーの稼働率が昨年度に比べて非常に高いが、どうしてか。

【事務局】

○滋賀県造形集団に2週間ギャラリーをお貸しして一緒に企画展を行った。この観覧者が非常に多かったのが大きい。稼働率については、昨年度は高文祭があってお貸しできない状況があったのと、来年から休館するという事をお伝えしたら、では1年早くギャラリー展をしますという声もあったので。

【委員】

○多くの県民に美術館に足を運んでもらおうと思ったら、ギャラリーは大事。私たち書道協会もいくつもギャラリー利用させていただいているが、貴館はキャパが足りないため利用させていただいていない。新生美術館では、ギャラリーの稼働率を高めて多くの人に来ていただくことをコンセプトにさせていただきたい。

○ギャラリーを使いたいのはみなさん同じなので、きちんとルールを作って運営してほしい。

○県内の文化芸術を支えるという視点を持っていただきたい。

○この美術館は書の所蔵はあるのか。今後置くことは考えているのか。

【事務局】

○琵琶湖文化館に書の所蔵があるので、こちらに移動させる予定ではある。

【委員】

○滋賀県は書に関して良い歴史をもっている。明治の3筆である日下部鳴鶴、巖谷一六、中林梧竹、そのうちの2人の日下部鳴鶴と巖谷一六が滋賀県の出身。近代書道を作っていた3人のうち2人がいますので、県内にはかなり作品が残っている。また現代書道では井上有一が有名だが、その両雄で森田子龍という人がいて、兵庫の出身だが晩年は大津市にいて、市内に作品が残っている。そのようなものも視野に入れると、近・現代のつながったコレクション展ができるのでご検討いただければ。

【会長】

○近代美術館で書道を扱うというのはまだ検討中で、数年前、東京国立近代美術館がとある書道家のものを収蔵した。それがひとつの節目になるのではと思っている。

【委員】

○貴館でのサルサナイトというイベントで、中高年の方がとても楽しそうにダンスをされているのを見て、新生美術館でもそのように柔軟に使えるスペースがあれば、いろいろな企画で様々な方を呼び込めるのでは。

④ 新生美術館の整備状況について

【事務局】

○新生美術館整備室長より新生美術館の整備状況の説明

【委員】

- 県展はスペースの関係で2期に分けて開催しているが、新生美術館ではなんとか1期開催を実現できるように工夫いただいている感謝している。引き続きお願い申し上げたい。
- ギャラリーは県民にじかに仲間の作品を見ていただく場であるので、照明やスペースなど、より一層良い形にしていただければ。
- ネーミングライツパートナーについて、歴史ある文化の世界に企業名がつくというのは不栄誉なのかもしれないが、どう考えているのか。

【事務局】

○新生美術館に向けていろいろな形で資金を集めていかなければいけないと思っている。資金を確保していくために、専門の方にもご意見をいただきながら検討していきたい。

【委員】

- 館内に、ここで写真を撮っていいとか、ここが良い写真スポットだという紹介があれば、会期中であってもいろいろなところに情報が拡散していくのでは。
- キッズとひとくくりにしても、年齢層によって必要な設備も違うので、そのような案内があれば赤ちゃん連れでも来やすいのでは。

【委員】

○予算に合わせて当初の設計を変えたということだが、個人的な考えだが、予算に合わせてコンセプトを曲げてしまうことはやめた方がよい。コンセプトを大事にして、多少予算が膨らんでしまうのであれば、例えば県民に寄付金を求めたりすることも必要では。県民の税金なので予算ももちろん大事だが、それにこだわりすぎてコンセプトを大幅に変えるようではいけない。